



TICAD 市民社会フォーラム主催

アフリカ学講座
国際協力をめざす人に -
募集要項

2006年5月

特定非営利活動法人 TICAD 市民社会フォーラム

西日本部会：〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学経済学部大林研究室内

TEL：075-645-8432 E-mail: kansai-africaseminar@ticad-csf.net

URL: <http://www.ticad-csf.net>

本部事務局：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-12-1 早大西早稲田ビル 6F
プロジェクト室 613-6 号室 早稲田大学アジア太平洋センター気付

TEL&FAX：03-5286-8261

後援：独立行政法人 国際協力機構兵庫国際センター（JICA兵庫）

<http://www.jica.go.jp/worldmap/kinki.html#hyogo>

龍谷大学社会科学研究所大林グループ

「アフリカ学講座 - 国際協力をめざす人に」のご案内

高まるアフリカへの関心と、国際協力分野における人材育成のニーズに応えるため アフリカ地域研究の国際協力編講座を開講します！

◆ アフリカへの関心が高まっています

2005年が「アフリカ年」とされたことをきっかけに、世界的にアフリカへの関心が高まっています。ミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限である2015年まであと10年となった昨年のG8サミットでは、アフリカ支援が重点課題に挙げられ、9月にはMDGs中間評価のためのサミットが開催されました。日本政府も、今後3年間でアフリカ支援額を倍増することを表明するなど、アフリカ支援について積極的な姿勢を見せつつあります。

◆ 「アフリカ学講座 国際協力をめざす人に」開催の背景と目的

国内外でアフリカへの関心が高まる一方で、大学など既存の教育機関では「アフリカでの国際協力」について包括的に学ぶことは困難でした。またアフリカに関心を持ち、高い専門性をもって国際協力活動に取り組む人たちが増えているものの、これらの人々の経験や知見は十分に共有されてきませんでした。

ニーズの高まりと、現状とのギャップに応えるために企画されたのが、TICAD市民社会フォーラム（TCSF）による「アフリカ学講座 国際協力をめざす人に」です。TCSFは昨年6月と10月に、市民や学生の皆さんを対象とした



東京で実施された「アフリカ学講座」の受講者
©TCSF 2005

「アフリカ学講座」を東京で開催した実績があります。関西では初めての開催となる「アフリカ学講座」は、現代アフリカが抱える魅力と開発の諸問題を多角的に紹介し、日本国内におけるアフリカ理解の促進に努めると同時に、アフリカに関して高い専門性を持つ人材を育成することを目指します。この講座に参加し、現在アフリカ地域で国際協力活動に携わる実務家や研究者の生の声を聞くことで、将来的に国際協力の分野で活躍するための専門的な知識を身につけることが可能です。

◆ 「アフリカ学講座 国際協力をめざす人に」の構成

「アフリカ学講座」は、週末を利用して集中的に開講されますので、学生でも社会人でも受講できます。コース終了時、受講生には終了証書をお渡しします。

「アフリカ学講座」の概要

開催日時： 2006年5月13日(土)・14日(日) 10:00 - 19:00

会場： 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 兵庫国際センター (JICA 兵庫)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

078-261-0341

13 ページに、会場周辺の地図と交通機関の案内を掲載しています。

定員： 60 名 受付先着順。予定人数に達し次第、募集を締め切らせていただきます。

受講料： **2日間参加** 一般：13,000 円 学生・院生：10,000 円

TCSF 会員：10,000 円、TCSF ボランティア / インターン / 研究員：9,000 円

1日のみの参加 一般：9,000 円 学生・院生：7,000 円

TCSF 会員：7,000 円、TCSF ボランティア / インターン / 研究員：5,500 円

1 日目 (5/13) の講座終了後、**アフリカン・ナイト in 神戸** (懇親会) を開催します。

参加希望者は参加費として、**別途 3,000 円** を頂戴します。

懇親会参加費は**受講料とあわせて**お振込み下さい。**当日申込は 3,500 円**頂戴します。できるかぎり事前にお申込み下さい。

対象： **アフリカに関心を寄せる大学生・大学院生・NGO 関係者・社会人など**

主催： 特定非営利活動法人 TICAD 市民社会フォーラム (TCSF)

後援： 独立行政法人 国際協力機構兵庫国際センター (JICA 兵庫)

龍谷大学社会科学研究所大林グループ

***** 受講申し込み方法 *****

メールにて以下の内容をお知らせのうえ、1 週間以内に郵便振替用紙で受講料をお振込みください。

1. お名前とご所属
2. ご連絡先 (Eメール、電話、住所)
3. アフリカ滞在経験の有無 (滞在国・期間など)
4. 出席のご希望日 (2 日間出席 または第 1 日目、第 2 日目のみ)
5. 懇親会の出欠

振込先： 郵便振替 口座番号：00920-5-279516 口座名義：TCSF **西日本部会アフリカ学講座**

申込締切日： **2006年5月1日** 受講料の入金確認は 3 日ほどかかります。確認後、メールにて手続き完了の旨をお知らせします。予定人数に達しましたら受付を締め切らせていただきます。お早めにお申し込みください。

キャンセル： 5 月 8 日以降のキャンセルに関しては、受講料・懇親会参加費は返金できません。それ以前のキャンセルは、手数料を差し引いた後の全額を返金いたします。

連絡先： TICAD 市民社会フォーラム 西日本部会アフリカ学講座 (担当：池田・山根)

E-mail:kansai-africaseminar@ticad-csf.net TEL: 075-645-8432

第1日目：2006年5月13日(土) 午前10時～午後7時
(アフリカン・ナイト in 神戸：午後7時20分～)

	9:30～	受付		担当者〔所属〕
午前	10:00 ～ 10:10	挨拶	TICAD 市民社会フォーラム代表挨拶	大林 稔 〔龍谷大学〕
	10:10 ～ 11:40		アフリカ学入門 概論	アフリカ学入門概論() —現代アフリカの多様性と共通の課題—
	5分間	休憩		
	11:45 ～ 13:15	アフリカ学入門概論() 歴史に見る日本とアフリカ		青木 澄夫 〔中部大学〕
昼休み				
午後	14:15 ～ 15:30	アフリカ社会の変容 宗教・女性・ジェンダー・国家	宗教から読み解くアフリカ	落合 雄彦 〔龍谷大学〕
	5分間		休憩	
	15:35 ～ 16:50		アフリカ社会と国家	川端 正久 〔龍谷大学〕
	5分間		休憩	
	16:55 ～ 18:10		アフリカの女性と人間の安全保障	戸田 真紀子 〔天理大学〕
	10分間		休憩	
	18:20 ～ 19:00		質疑応答 共通討論「現代アフリカ社会の多様性と変容」 コメンテーター & ファシリテーター：大林 稔	青木・落合・ 戸田・川端
夕方	19:20～	アフリカン・ナイト in 神戸		

第2日目：2006年5月14日(日) 午前10時～午後6時50分

		受付		担当者〔所属〕
午前	9:30～			
	10:00～ 11:30	アフリカにおける貧困と農村開発 その現状と展開	アフリカにおける貧困と開発	高橋 基樹 〔神戸大学〕
	5分間		休憩	
	11:35～ 13:05		アフリカにおける農村と貧困	池上 甲一 〔近畿大学〕
			昼休み	
14:00～ 15:30	アフリカ農民の自立支援 CARAの経験から		村上 一枝 〔カラ=西アフリカ 農村自立協会〕	
	5分間	休憩		
午後	15:35～ 16:10		質疑応答・共通討論	高橋・池上・村上
	10分間	休憩		
	16:20～ 17:40	日本のアフリカ協力 援助・外交政策	日本のアフリカ協力概論() 外務省編	橋本 尚文 〔外務省経済協力局〕
			日本のアフリカ協力概論() JICA編	高橋 嘉行 〔JICA大阪〕
			日本のアフリカ協力概論() JBIC編	肥沼 光彦 〔JBIC〕
			日本のアフリカ協力概論() NGO編	船田クラーセンさやか 〔TCSF〕
	10分間	休憩		
	17:50～ 18:30		質疑応答・討論 コーディネーター：杉木 明子(神戸学院大学)	橋本・高橋・ 肥沼・船田
18:30～ 18:50	閉会式	終了証書授与 閉会挨拶	大林 稔	

「アフリカ学講座」の講義概要

この講座のねらい：この講座では、アフリカ学およびアフリカとの国際協力に関心のある人たちのために、現代のアフリカ社会が抱える課題についての理解を深めて頂くとともに、アフリカ協力に関わる日本の多様なアクターの実践を紹介します。

1日目の講義は「アフリカ学入門概論」と「アフリカ社会の変容」がテーマで、歴史、宗教、ジェンダーなど多様な側面から、現代アフリカのすがたを紹介します。また2日目の講義は「アフリカにおける貧困と農村開発」「日本のアフリカ協力」がテーマです。アフリカにおける貧困や農村開発の問題について、わかりやすく解説するとともに、日本の政府機関やNGOが、それぞれの立場ごとに異なる視点から、アフリカとの協力について語ります。

なお各講座では、講師への質疑応答にとどまらず、参加者どうしが議論できる場も提供します。

一日目（5月13日）の講義

アフリカ学入門概論

現代アフリカの抱える課題を紹介するほか、現在に至る歴史的背景を紹介する。また初心者にとっても分かりやすいように、写真や映像、文学など多角的な資料を活用しながら、アフリカへの関心を高める。

アフリカ学入門概論（Ⅰ）

現代アフリカの多様性と共通の課題

講師： 大林 稔（龍谷大学経済学部 教授）

講義内容： 現代アフリカ各国が抱える問題をテーマごとに紹介する。また、問題意識の立て方としては「なぜ日本からアフリカが遠く感じるのか」を切り口に、アフリカと日本の比較なども行いながら進める。切り口へのヒントとしては、日本でのアフリカに関する報道や取り上げられ方なども取り上げる。

キーワード： 基礎生活分野（Basic Human Needs、BHN）、持続可能な開発（Sustainable Development）、グッドガバナンス（Good Governance）、ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals、MDGs）

アフリカ学入門概論（Ⅱ）

歴史に見る日本とアフリカ

講師： 青木 澄夫（中部大学国際関係学部国際関係学科 教授）

講座内容： 明治の近代化、富国強兵政策の中で、「からゆきさん」や商人のアフリカ進出、植民地支配のためのアフリカ研究など、さまざまな側面からアフリカと日本は深い関係にあった。本講座では、「遠い」アフリカと日本との関係を振り返り、「日本人の手は本当に汚れていなかったのか」を含め、日本人のアフリカ観を再考する。

キーワード： 日ア交流史、「からゆきさん」、アフリカ情報、排日問題

アフリカ社会の変容 - 宗教・女性・ジェンダー・国家 -

アフリカの普通の人々がどのような生活をしているのか、文化、宗教、女性といった、さまざまな視点から、講師の個人的体験や歴史的背景を交えて紹介する。また必要に応じて日本社会との比較もおこない、現代アフリカで生活する人々が直面する問題などを身近に感じるきっかけを提供する。

宗教から読み解くアフリカ

講師： 落合 雄彦（龍谷大学法学部 教授）

講座内容： 諸々の制度や政治構造が危機に陥り、従来の価値基準が揺らぐときに、新宗教が発生する場合があるが、アフリカも例外ではない。本講座では、アフリカ諸国で見られる新宗教の現状とその背景を主に探ることで、アフリカの社会を読み解くひとつの視点を紹介する。具体的には、ナイジェリアのキリスト教系新宗教集団やペンテコステ・カリスマ運動、セネガルのイスラーム教団などを取り上げる。

キーワード： 新宗教、ナイジェリア、セネガル、ペンテコステ・カリスマ運動

アフリカ社会と国家

講師： 川端 正久（龍谷大学法学部 教授）

講座内容： アフリカ諸国は独立して50年になろうとしています。アフリカ諸国の過去をふり返し、現状を考え、将来を展望します。国家の建設、国民の形成、社会の変化について考えます。

キーワード： 国民国家、ネーションとエスニシティ、伝統的社会と近代化

アフリカの女性と人間の安全保障

講師： 戸田 真紀子（天理大学国際文化学部地域文化研究センター 教授）

講座内容： アフリカの女性ほど、人間の安全保障という概念を必要としている人間はいないのではないだろうか。もちろん、南アジアをはじめ、貧困とジェンダー格差に苦しむ女性がいけない地域はない。日本も、ジェンダー・エンパワーメント指数をみれば、その経済力に比して女性の地位が低いことがよくわかる。日本もアフリカも、男性支配社会であることにはかわりはない。日本は経済大国であるが、アフリカでも、平均的な日本人以上の豊かな生活を送っている女性はいる。それでも、本講義では、アフリカの女性の窮状を訴えたい。もちろん、都市の裕福な女性ではなく、全体の8割を占める農村に住む女性たちのことを語りたい。

キーワード： 女性、ジェンダー、人間の安全保障、エンパワーメント

二日目（5月14日）の講義

アフリカにおける貧困と農村開発 - その現状と展開 -

アフリカというと貧困や飢餓がいつも発生し、日本を含めた多くの「先進諸国」の支援の対象というイメージが一般的に流布している。しかしアフリカを語る際に多用される「貧しさ」という言葉は、何を意味しているのだろうか。またそれは、アフリカの人々の生活の実態を言い表していると言えるのだろうか。このコースでは、アフリカの貧困について多角的に論じる一方、近年進む国際的な「貧困削減」の取り組みとその実態について明らかにする。

アフリカにおける貧困と開発

講師： 高橋 基樹（神戸大学大学院国際協力研究科 教授）

講座内容： アフリカの貧困国は1990年代の末から、日本をふくむ援助諸国や、世界銀行をはじめとする国際金融機関などとともに、貧困者のニーズに配慮した公共政策の実施を目指す、貧困削減戦略書（PRSP）の策定に取り組んできた。この講義では、PRSPの理論について、わかりやすく説明するとともに、アフリカ諸国における貧困削減の取り組みと、その問題点について述べる。また、援助諸国や国際機関による援助政策の変遷もあわせて紹介する。

キーワード： 貧困削減戦略、貧困削減戦略ペーパー（PRSP）、アフリカ委員会（Commission for Africa, CFA）

アフリカにおける農村と貧困

講師： 池上 甲一（近畿大学農学部 教授）

講座内容： アフリカ各地における農村での現地調査を通じて、現代アフリカ農村部が抱える困難と可能性について紹介する。特に、急激に変貌する農村社会のあり方を貧困に着目しながら解説するとともに、いわゆるグローバリゼーションとの関連についても論及する。

キーワード： 農村開発、農村社会、貧困、南北問題

アフリカ農民の自立支援

CARA の経験から

講師： 村上一枝（特定非営利活動法人 カラ＝西アフリカ農村自立協会）

講座内容： マリ共和国において、農村生活の改善や女性の自立を目的とした支援活動にたずさわってきた経験をもとに、農村で暮らす人びとが直面する砂漠化や貧困の問題について、草の根の視点から紹介する。また環境保全、識字学習、職業訓練をはじめ、人間の基本的ニーズ（BHN）を中心にすえた活動をとおして、農村の自立を達成する試みについて説明する。

キーワード： 農村の自立、女性、人間の基本的ニーズ（Basic Human Needs、BHN）

日本のアフリカ協力

これまで日本とアフリカとの関係は、十分に理解されてきたとはいいがたい。ここでは日本のアフリカ協力について、政府機関や NGO の視点から多角的に紹介するとともに、今後の課題について展望する。とくに今後、国際協力の分野で活躍を希望する市民や学生にとって有用な情報を提供する。

日本のアフリカ協力概論（Ⅰ）

外務省編

講師： 橋本 尚文（外務省 経済協力局国別開発協力第二課長）

講座内容： 日本の政府開発援助（ODA）は、伝統的にアジア諸国を中心に展開してきたが、近年ではアフリカ諸国に対する支援の重要性が認識されるようになった。この講義では昨年4月、アフリカ諸国へのODA増進を表明した小泉首相の発言に至る経緯を、日本の対アフリカ協力の歴史を踏まえて解説する。また2008年に予定される第四回アフリカ開発会議に向けた日本政府の取り組みについて、途上国政府や NGO に対する資金協力プログラムの仕組みにも言及しながら、わかりやすく説明する。

キーワード： 外務省、政府開発援助（Official Development Assistance, ODA）、アフリカ開発会議、一般無償資金協力、草の根・人間の安全保障無償資金協力

日本のアフリカ協力概論（Ⅱ）

JICA 編

講師： 高橋 嘉行（JICA 大阪センター 所長）

講座内容： 国際協力機構（JICA）は、アフリカ地域における貧困削減の取り組みを重要な課題と捉えて、アフリカに対する技術協力の拡大に努めるとともに、現地事務所の新設と権限強化をおこなってきた。この講義では、アフリカにおける JICA 活動の概略と課題を、講師の経験を踏まえて紹介する。また「青年海外協力隊」や「草の根技術協力」など、市民の参加による国際協力のプログラムについて、具体的な例を挙げながら説明する。

キーワード： 国際協力機構（JICA）、技術協力、市民参加

日本のアフリカ協力概論（Ⅲ）

JBIC 編

講師： 肥沼 光彦（国際協力銀行 企業金融部）

講座内容： JBIC の活動をはじめとする、日本からの資金協力の歴史、その課題や今後の展望を紹介する。またなぜアフリカにおいて開発協力が必要とされ、日本から資金提供が行われてきたのかという問いに答えるため、アジアにおける「緑の革命」とも比較しながら、アフリカでの普及が期待される「ネリカ米」の可能性を、改めて検討する。さらに日本の政府開発援助（ODA）資金がどのように支出されるのか、その仕組みを理解する。限られた時間ではあるが、講師の経験をもとに、サブサハラ向け援助のいろいろな「見方」を紹介したい。

キーワード： 国際協力銀行（JBIC）、資金無償、緑の革命、ネリカ米、政府開発援助（Official Development Assistance, ODA）

日本のアフリカ協力概論（ ）

NGO 編

講 師： 松田クラーセン さやか（東京外国語大学 講師）

講座内容： 日本の NGO でアフリカに関わる団体は複数あるが、その中でどのような活動が行われているのか、主に事業を現地で行う団体や日本で活動するアドボカシー団体の活動を紹介し、それぞれが抱える問題を検討していく。

キーワード： NGO、アドボカシー団体

「アフリカ学講座」の講師紹介

一日目（5月13日）の講師

大林 稔（龍谷大学経済学部 教授 / TICAD 市民社会フォーラム代表）

経済学修士（早稲田大学）。民間企業に勤務後、外務省経済担当専門調査員として在ザイル大使館勤務（1983-1985年）、貿易研修センター（国際貿易大学）専任講師（1986年-1988年）、国連開発計画（UNDP）シニアエコノミスト（ブルンジ・フィールド・オフィス勤務）（1988-1990年）、外務省アフリカ担当専門調査員として在フランス大使館勤務（1990-1993年）、龍谷大学経済学部助教授（1993-1996年）を経て1994年より現職。

青木 澄夫（中部大学国際関係学部国際関係学科 教授）

1975年社団法人アフリカ協会の派遣により、ケニアで学ぶ。1976年～78年ナイロビ日本人学校教員、1978年～1980年ダルエスサラーム日本語補習校教員。帰国後、独立行政法人国際協力機構（JICA）に入団し、インドネシア、ケニア、タンザニアに勤務。2004年4月から現職。国際協力入門、地域開発論、アフリカを知るなどの講義を担当。専門はアフリカを中心にした開発途上国と日本との関係、交流、協力。著書に『アフリカに渡った日本人』（時事通信社、1993年）、『日本人のアフリカ「発見」』（山川出版社、2000年）など。

落合 雄彦（龍谷大学法学部 教授）

法学修士（慶應義塾大学）、社会科学修士（M. Soc. Sc、英国バーミンガム大学）。専門分野はアフリカ政治学、国際関係論。主な著作に『国際情勢ベーシックシリーズ アフリカ』（共著、自由国民社、1999年）、『アフリカの国内紛争と予防外交』（共著、国際書院、2001年）。
詳細についてはホームページ（<http://hare.law.ryukoku.ac.jp/~ochiai/>）を参照のこと。

川端 正久（龍谷大学法学部政治学科 教授）

博士（法学）（2004年、名古屋大学）。主な著作に『アフリカ危機の構造』（世界思想社、1987年）、『アフリカの政治を読む』（法律文化社、1990年）、『アフリカ人の覚醒』（法律文化社、2002年）、『アフリカ・ルネサンス』（法律文化社、2003年）など。

戸田 真紀子（天理大学国際文化学部地域文化研究センター 教授）

博士（法学）（1995年、大阪大学）。専門は比較政治学（アフリカ地域研究）。現在の研究課題は多民族国家における紛争解決モデルの構築とアフリカの草の根の女性のための開発モデルの検討。主な著作に、『帝国への抵抗』（編著、世界思想社、2006年）、「21世紀のアフリカと女性」（大林稔編『アフリカの挑戦』昭和堂、2003年）など。

二日目（5月14日）の講師

高橋 基樹（神戸大学大学院国際協力研究科 教授）

School of Advanced International Studies, the Johns Hopkins University、日本郵船（株）、（財）国際開発センター研究員、神戸大学大学院国際協力研究科助教授を経て現在、神戸大学大学院国際協力研究科教授・副研究科長。主な著作に『アフリカ経済論』（共編著、ミネルヴァ書房、2004年）、「援助依存を超えて—アフリカにおける貧困削減パートナーシップと NEPAD」（『アフリカの挑戦—NEPAD（アフリカのための新開発パートナーシップ）』昭和堂、2003年）、「アフリカ国家論と経済開発政策：新政治経済学の再検討」（『アフリカ経済学宣言』、アジア経済研究所、2003年）。

池上 甲一（近畿大学農学部 教授）

1952年生まれ、長野県出身、京都大学大学院農学研究科博士課程を修了後、京都大学農学部助手、同講師、近畿大学農学部助教授を経て現職。農業社会経済学の構築を目指し、農業・食料問題、水・環境問題、農村活性化、オルタナティブ・トレードなどについて研究しながら、日本、タイ、東部・南部アフリカの村を歩き回っている。アフリカ農村の発展に関する JICA の委託研究にもいくつか関与した。著書：『日本の水と農業』学陽書房、『アフリカと日本』勁草書房（共著）、『現代社会学への誘い』朝日新聞社（共著）、『アフリカ経済』世界思想社（共著）、『持続的農業農村の展望』大明堂（共編著）、『京の旬 食と農の達人をめざして』（責任編集）昭和堂、『世界のフードシステム』（共著）農林統計協会、『農林水産技術者倫理学』（共著）農文協、など。

村上 一枝（特定非営利活動法人 カラ = 西アフリカ農村自立協会）

北海道士別市出身、日本歯科大学東京校卒業、歯科医師。1989年9月から西アフリカ、マリ共和国において、植林活動に参加した。以後マリに在住し、村民健康調査、診療所建設、看護師・助産婦育成、識字学習普及、小学校の整備と再開、女性適正技術指導等の活動に従事。1992年9月、支援団体「マリ共和国保健医療を支援する会」設立、現地代表に就任。翌年、団体名称を「カラ = 西アフリカ農村自立協力会」に改名（2002年3月に特定非営利活動団体として認証）。1993年10月、外務省主催「第1回アフリカ開発会議」NGOフォーラム「立ち上がる女性たち」にパネラーとして参加（他に支援団体、学校等での講演多数）。現在はマリ共和国と日本事務局を往復しながら、活動を継続している。

橋本 尚文（外務省 経済協力局国別開発協力第二課長）

高橋 嘉行（JICA 大阪センター 所長）

国際農村開発学修士（カリフォルニア大学デービス校）、1976年に JICA 入団。ケニア事務所勤務（1989年から3年間）、南アフリカ事務所長（1999年から3年間）を経験。2005年10月から JICA 大阪国際センター所長。

肥沼 光彦（国際協力銀行 企業金融部）

1985年 OECF 入社。おもにサブサハラ地域における円借款を手がけてきた。1990年代には、パリ駐在とアフリカ担当課において、構造調整を中心とするドナー調整や、パリクラブでの債務削減問題を担当した。

松田クラーセン さやか（TICAD 市民社会フォーラム副代表 / 東京外国語大学 講師）
国際関係学修士（神戸市立外国語大学）。国連モザンビーク活動選挙部門オフィサー（1994年5-12月）、津田塾大学国際関係学研究所研究員（2002-2004年）を経て、2004年より現職。専門はアフリカ現代史（モザンビーク武力紛争・平和と歴史）。また、津田塾大学大学院在学中に日本政府派遣ボスニア・ヘルツェゴビナ選挙監視要員、日本政府派遣パレスチナ選挙監視要員（共に1996年）として現地に派遣された。TICAD市民社会フォーラムの副代表を務める他、国内NGOであるモザンビーク支援ネットワーク（旧モザンビーク洪水被害者支援ネットワーク 2000-2002年）代表を務めている。

「アフリカ学講座」コーディネーター

杉木 明子（神戸学院大学法学部国際関係法学科 助教授）
政治学博士(Ph.D.)（英国エセックス大学大学院）。津田塾大学卒、慶應義塾大学大学院修士課程修了、ロンドン大学（LSE）修士課程（国際関係論）修了。専攻は国際政治論、国際人権論、アフリカ現代政治論。現在の研究テーマはアフリカにおける「平和構築」と開発援助、多文化主義統合と「集団の権利」、難民保護と「人間の安全保障」。主な著書・論文に『アフリカ』第2版（共著 自由国民社、1999年）、「政治理論における「集団の人権」概念と人権保障」『国際人権』国際人権法学会 2003年報第14号（2003年）など。

後援団体

独立行政法人 国際協力機構兵庫国際センター（JICA 兵庫）

<http://www.jica.go.jp/worldmap/kinki.html#hyogo>

龍谷大学社会科学研究所大林グループ

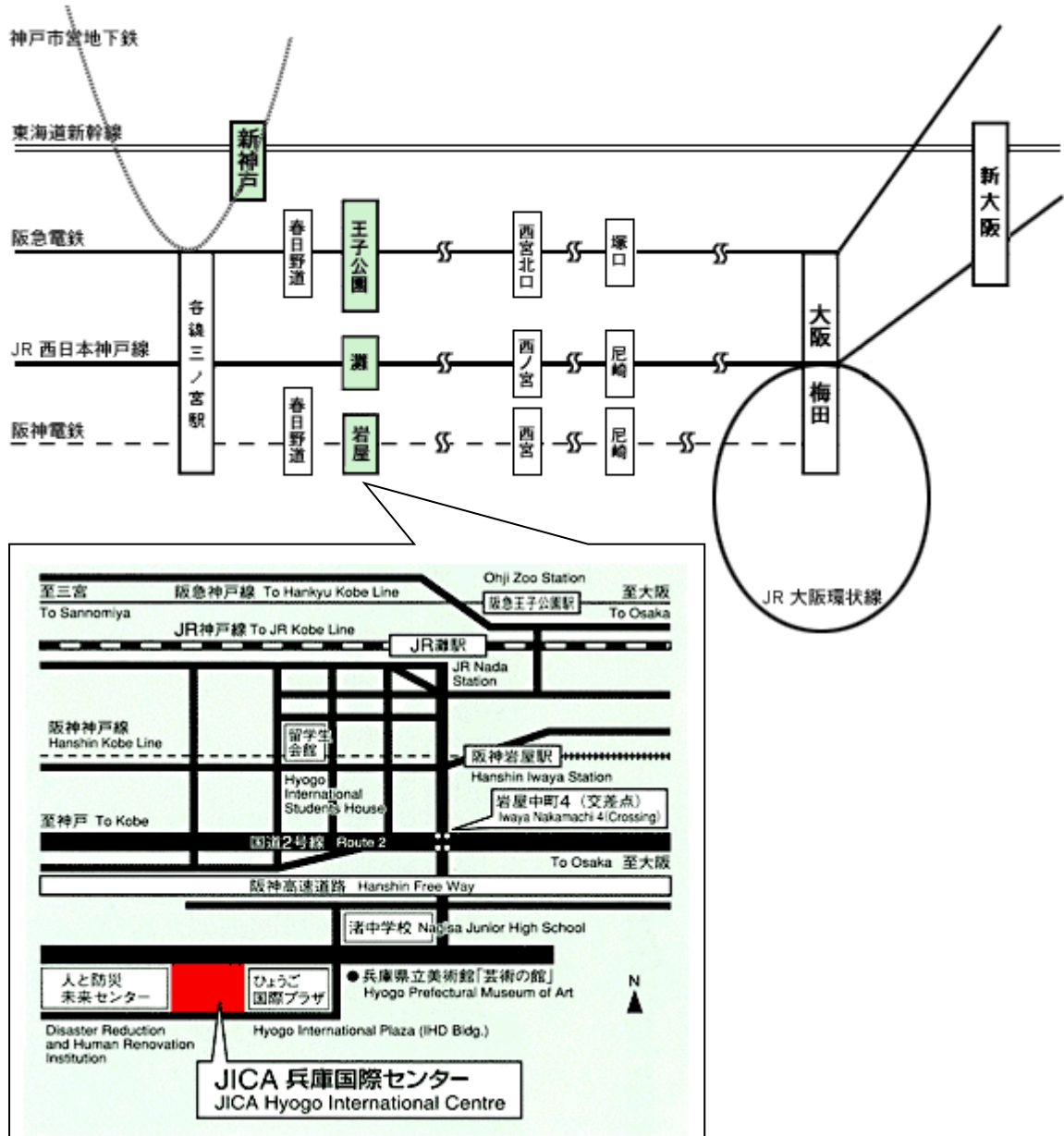
会場へのアクセス

会場(兵庫国際センター)へのアクセス方法

東海道新幹線「新神戸駅」下車 タクシーで約 10 分

JR 灘駅から徒歩約 12 分、阪神岩屋駅から徒歩約 10 分

神戸市バス 101 系統「県立美術館前」下車 西へ徒歩約 1 分



(JICA 兵庫国際センターホームページより転載。 <http://www.jica.go.jp/branch/hic/jimusho/access.html#map>)